



たかまつ

学校の教育目標

●自ら学ぶ子

●思いやりのある子

●たくましい子

言い方を変えれば子供が変わる

副校長 小貫 義智

10月27日(火)の5、6校時に、高小フェスティバルが行われました。これは高松小学校版の文化祭のことです。新型コロナウイルスのために、例年より規模を縮小せざるを得ませんでした。

いつもの年ならば、自分の行きたい学級をどれでも見て回れます。ですが、今年は兄弟学年のクラスしか見られませんでした。感染拡大防止のための苦肉の策でしたが、その点は残念でした。

しかし、子供たちはそんなことをおくびにも出さず、当日はもちろん、事前準備にもすすんで取り組んでいました。フェスティバル後には「楽しかった」や「頑張って仕事ができた」という前向きな声をたくさん聞きました。

子供たちが高小フェスティバルに積極的だったのは、言うまでもなく楽しいし、うれしいからです。

では、日頃の宿題やお手伝いには積極的でしょうか。「もちろんです」というご家庭もある一方、「いくら言ってもダメなんです」という方もいらっしゃるかもしれません。もし言っても変わらないのならば、少し言い方を変えてみてはいかがでしょうか。

「私メッセージ」という言葉があります。「アイ（英語の一人称のI）メッセージ」とも言います。

具体的な場面で考えてみましょう。例えば、子供が夕飯の片付けを手伝ったとします。そのようなとき、次の①と②ではどちらの言葉でほめますか。

- ① おはしを片付けてくれて、えらいね。
- ② おはしを片付けてくれて、助かるな。

どちらも子供をほめています。子供はうれしく感じるはずですが、ただし、「どちらがより子供の自主性を引き出すか」という観点では、片方に軍配が上がります。

①では、保護者が子供の行動を評価しています。一方、②では子供の行動によって自分がどう感じたかを伝えています。

この「自分がどう感じたか」を伝えるのが「私メッセージ」です。この方が、子供の自主性を引き出すとされています。なぜなら、自分の言動によって相手の気持ちが変わるのは、うれしいことだからです。

この「私メッセージ」はほめるときだけではなく、注意するときにも応用できます。例えば「それをしてはいけない」と言う代わりに「そんなことされると悲しいな（さみしいな、残念だな）」のように伝えます。

もちろん、子供の行動がすぐには変わりません（大人が言い続けて、低学年は3日、中学年は3週間、高学年は3ヶ月かかるとも言います）。ですが、もし今までの言い方で変わらないのならば、しばらくの間、試してみてもいいでしょうか。

月	火	水	木	金	土	日
						1 校庭 13:00
朝会(放送) 2 委員会(6校時) 3、4年5時間 校庭 15:30 図書 15:30	3 文化の日 校庭 14:00 図書 -	4 全学年5時間授業 あいさつ運動始 校庭 15:00 図書 15:00	5 校庭 15:30 図書 15:30	6 読書月間(2学期)終 あいさつ運動終 校庭 15:00 図書 15:00	7 校庭 14:00 図書 -	8 校庭 14:00 図書 -
9 朝会(放送) 校庭 15:30 図書 15:30	10 安全指導 兄弟学年遊び 校庭 15:30 図書 15:30	11 就学時健診 全学年4時間 校庭 - 図書 -	12 兄弟遊び予備日 校庭 15:30 図書 15:30	13 校庭 15:00 図書 15:00	14 土曜授業日 校庭 14:00	15 学校公開 道徳授業地区公開講座1 校庭 14:00
16 朝会(放送) 校庭 15:30 図書 15:30	17 避難訓練 校庭 15:30 図書 15:30	18 クラブ(5校時) 校庭 15:00 図書 15:00	19 校庭 15:30 図書 15:30	20 校庭 15:00 図書 15:00	21 校庭 14:00	22 校庭 14:00
23 勤労感謝の日 校庭 14:00 図書 -	24 校庭 15:30 図書 15:30	25 全学年4時間授業 校庭 15:00 図書 15:00	26 校庭 15:30 図書 15:30	27 展覧会始 (児童・保護者鑑賞日) 校庭 15:00 図書 15:00	28 土曜授業日 校庭 14:00	29 展覧会(保護者鑑賞日) 校庭 14:00
30 朝会(放送) 展覧会終(児童) 校庭 15:30 図書 15:30	※土曜公開と展覧会の参観については、別紙お便りをご覧ください。 ※図書開放は当面の間、児童のみの利用とします。また、貸し出しと土日祝の開放は行いません。 ※就学時健診の日は校庭・図書ともありません。					

展覧会に向けて

図工主任 三田 玲子

今年は新型コロナウイルスの影響で小規模開催となり、平面作品と家庭科作品のみとなりましたが、11月27日(金)、11月28日(土)の展覧会に向けて子供たちはいつも以上に一生懸命に取り組んでいます。「どうやって描いたらそれらしくなるのかな?」、「針の頭が思った所から出ないな。」と、素敵な作品になるのか試行錯誤しながら心を込めて作品を作っています。ご鑑賞の際には子供の思いや工夫をご覧ください、お子さんと作品について話をし、沢山褒めていただきたいと思います。

それでは、作品の一部を紹介します。

1年生「カラフルキャット」

3つの円を組み合わせて、色んな動きのある猫です。色も鮮やかな、世界に1匹だけの猫です。

2年生「にじ色にかがやく魚たち」

クレヨンと絵の具を使ってスクラッチという技法に挑戦しました。図鑑などを見て想像を広げ、お気に入りの海の生き物を描きました。

3年生「未来の〇〇かいだてのいえ」

絵本「100かいだてのいえ」を参考に、未来の「39、38、37かいだてのいえ」を描きました。子供たちの描く未来の世界は、どんな世界が広がっているのでしょうか。

4年生「くると回ってごきげんいかが?」

岩手県の民芸品「けっちゃん面」をモデルに、変化する顔を考えました。ストーリーも考えて描いたので、お話にもご注目ください。

5年生「風神雷神」

俵屋宗達の屏風絵を模写し、木版にしました。細かい彫りをご覧ください。版木にも着色し、オリジナルの風神雷神にしました。

6年生「ノスタルジックメモリー」

6年間の集大成として学校の思い出を初めて構成して表しました。人や建物の形、校庭には何があるのかを観察しながら描きました。

高学年の窓(6年)

10月13日に6年生による体育科学習発表会が行われました。雨天のため延期となった本番でしたが、堂々とした発表ができました。

児童の感想の一部をご紹介します。

1番頑張ったのは肩倒立とブリッジです。全然できない技だったけれど、本番では歯を食いしばり、ちゃんと止まった姿勢を維持できました。(新開 結菜)

1番苦労して、しかも不安だったのがブリッジです。頭に血が昇って痛くなるのですが、本番までに何回も練習したおかげで、楽しくできました。(バウ 亜蘭)

私は、花の演技を発表会で頑張りました。手を上げるタイミングや、下げるタイミングを覚えるのが大変でした。思い出に残りました。(岩野 夢)

私が頑張ったことは、花の演技です。どうやったら、より美しく、迫力のある演技に仕上がるかを考えながら表現しました。(町野 はる)

1番頑張ったことは、声を張り上げたことです。自分の中では100点満点の演技でした。小学校生活最後の運動会に、悔いはないです。(阿部 夏実)

創作ダンスで、最高の演技のためにはメリットとデメリットを見つけて心を一つにすることが大切であると考えました。(田中 優和)



11月の生活目標

気持ちのよい言葉で心をつなごう

言葉にはとても素晴らしい力があります。あなたの一言で、相手を笑顔にさせたり、幸せにしたり、喜ばせたりすることができるのです。一方、またその一言で相手を悲しませたり、傷つけてしまったりすることもあります。もしかしたら、あなたの一言で相手の人生が変わるかもしれません。言葉は人と人をつなぐ大事なものです。

たくさんの言葉がある中でも「ありがとう」は特別な言葉だと思います。目を見て「ありがとう」と言われると、とても嬉しくて温かい気持ちになります。「こちらこそありがとう」と言いたくなりますね。

お互いに優しくなれる魔法の言葉「ありがとう」を心がけて生活してみると、素敵なことが起こるでしょう。

気持ちのよい言葉で温かい心と心をつないでいけるように、声をかけていきたいと思います。

今から始めよう! 「ありがとう」

(生活指導委員会 松島 ほのか)

